# ツバメのヒナ ひかるちゃん

## 【保護から野生復帰までの記録】

私を見つめる ひかるちゃん

# 【目　次】

Ⅰ　はじめに

Ⅱ　保護から巣立ちまで

・保護の背景

・エサと糞

・「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」との出会い

・エサの工夫と改善

Ⅲ　巣立ちから放鳥まで

・巣立ちヒナの飼育上の注意点

・発育状態、飛翔能力の確認

・放鳥時期、放鳥場所の選択と決定

Ⅳ　放鳥から野生復帰まで

・野生復帰訓練と自然界での試練

1. 飛翔訓練、採餌訓練
2. 自立訓練、社会化訓練

・野生化しつつあるツバメの生活スタイルと嗜好の変化

Ⅴ　ツバメ観察

・巣立ち後教育

Ⅵ　おわりに

# Ⅰ はじめに

2020 年 夏「孵化して間もないツバメのヒナ」を保護しました。放鳥したのち 28 日間、飛翔訓練、採餌訓練、自立訓練、社会化訓練して野生復帰に至りました。

人間である私は、巣立ったばかりのヒナに、自然界で生き延びていくために必要な知恵(多様な飛び方、エサのとり方、危険回避の方法、仲間との付き合い方等）を直接教えることは非常に困難です。

その代わり、ヒナが本能に導かれながら、野生のツバメを手本にして実際に見て真似しながら身につけることができるように、学習しやすい環境へと徐々に導いていきました。また、自宅周辺の位置関係を記憶させ、非常事態（エサがとれない、仲間外れにされた、ねぐらを追い出された等）が起こったときは、いつでも戻ってこれるようにしました。そして、少しずつ飛翔能力や採餌能力がつき、位置関係が分かってきた頃、ヒナの自立、社会化に向けて訓練していきました。窓を開放して自由に出入りさせ、昼夜共に自然界で過ごすことができ、仲間と共に生活できるようになるまで、ある程度の移行期間を設けて野生に戻していきました。

私はツバメに関する知識は、ほとんどありませんでした。ヒナを保護してからは、たくさんの情報を集めました。何を参考にしてよいか分からず頭が混乱しました。毎日が手探りの状態で常に悩み、判断や決断ができない状況が続きました。

そんな折り、インターネット上で 2003 年京都野鳥の会、会員M氏が執筆された「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」に出会いました。この記録はヒナを育てる上での道しるべとなり、野生復帰へと導いてくれました。

保護期間中には様々な出来事が起こりました。放鳥してからは、たくさんの試練が続きました。「ツバメのヒナ　ひかるちゃん　保護から野生復帰までの記録」には、気づいた点や反省点、心の動きを盛り込みました。また、当初は記録に残すことを想定しておりませんでしたので、写真が不足している部分がありますが、どうかお許しください。

この記録が、ツバメのヒナの救助、保護の場面に出会われた方々にとって、少しでも参考になりましたら幸いに思います。

2020 年　晩秋

未熟な愛鳥家

Yasuyo

## Ⅱ 保護から巣立ちまで

### 【保護の背景】

2020 年 6 月 10 日（水）

14 時 15 分

突然ドスンと物音がした。急いで音がした場所へ行くと職場の通用口に作られたツバメの巣が落ちていた。落ちた巣は全壊していた。巣の周辺では親鳥が飛び交いけたたましい声で鳴いていた。

その巣には、小さなヒナが 2 羽いて生きていた。ヒナの体は赤裸であり、触るとまだ温かかった。目は常に閉じられていて羽は棒状のものしか生えていなかった。落ちた衝撃による明らかな外傷は見られなかった。2 羽のヒナは成長に差があり、小さい方のヒナが今回保護したツバメである。

インターネットで救助方法を調べた。すぐに回答が見つからなかった。14 時 30 分には仕事が始まる。時間がない。動転していた私は通用口近くの玄関に作られた巣（右の巣）にヒナを戻した。

ツバメは毎年いつも同じ場所に 1 ケ所だけ巣を作る。しかし今年は、3 ケ所違う場所に巣を作った。しかもそれぞれ 2 回繁殖した。戻した巣（右の巣）は空であり、隣接してもう一つ大きな巣（左の巣）があった。そこには一回り大きなヒナが 5 羽いた。戻したヒナは弱々しい声でジージーと鳴いていたが、親鳥が気づくかどうか心配だった。

箱の上に巣ごと落下

戻した玄関の巣

玄関の巣の拡大

18　　時

戻したヒナのうちの 1 羽が、また落ちていた。小さい方のヒナだった。地面には糞受けのダンボール箱が置いてあり、その中には何枚もの新聞紙が敷き詰められていた。新聞紙が衝撃を和らげてくれたおかげか、ヒナは生きていた。

ヒナの体は雨に濡れて冷えきっていた。口を開けることも鳴くこともできない瀕死の状態だった。急いでヒナの体をタオルで乾かし、ダンボールの箱に入れた。箱の底にはカイロを張り、熱くなりすぎないようにタオルを敷いた。その上には、体が外気に触れないように細かく刻んだ新聞紙を入れて保温した。

私はツバメに関する知識はほとんどない。

・エサは何を与えればよいのか。
・温度や湿度は何度に保てばよいのか。
・どんな寝床にすればよいのか。

**19　　時**

調べたところエサはミルワームと記載されてあったので、急いでペットショップへ買いに行った。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため閉まっていた。次は大型スーパーマーケットへ行った。鳥のエサはインコ・文鳥用のエサ(ビタミン入りヒエ、アワ)だけだった。

とりあえずそのエサを買って帰った。エサをお湯につけて柔らかくし、すり鉢ですり潰し、ゆで卵の黄身を混ぜ合わせ、人肌程度の温度にしてスプーンで与えた。この方法は小学生の頃、手のり文鳥を育てたときの曖昧な記憶をもとに行った。

ヒナは口を殆ど開けてくれなかった。観察をしていると、首の周りは赤い皮膚がむき出しになっていてノドがわずかに動いていることに気がついた。エキス(栄養分を含んだ汁、液体)だけは飲んでくれたようだ。暫くしてヒナは水のような糞をした。

**20　　時**

夜は自宅に連れて帰り、先ほどのダンボール箱に入れて眠らせた。箱には空気穴を開け、箱全体を軽く新聞紙で覆った。室内は寒かったのでエアコンを入れ、ヒナに風があたらないようにした。箱の中には温湿度計を置き、温度 30℃　湿度 60%程度を保つようにした。

羽が生え揃っていないヒナは体温調節ができないので寒さにとても弱い。鳥類の平均体温は 40～42℃。私はヒナの体を手で触り、人間の体温よりも高いかどうかを常に感触で確認した。ヒナの死因の 3 大要因は、① 低体温 ② 飢餓 ③ 感染症。この夜、ヒナが翌朝生きているかどうか心配で、なかなか寝つけなかった。

**6 月 11 日(木)　6 時　孵化後 6 日令**

恐る恐る箱を開けた。目はうっすらと開き、声は弱々しいが大きく口を開けてジージーと鳴いていた。私はヒナが「生きたい」という強い意志を、小さな体全体で表していることを感じた。

その瞬間、身体の中から込み上げてくる何か熱いものを感じた。「ヒナを助けよう。いや、絶対に助ける」と心に誓った瞬間だった。調べたところツバメのヒナの開眼は孵化後 6 日目であると言われているので、ヒナの孵化は 6 月 6 日と推定される。

6 月 11 日
目は殆ど閉じられていた

6 月 12 日
ずいぶん元気になってきた

## 【エサと糞】

昨夜はインターネットでたくさんの情報を集めた。何を参考にしてよいか分らず頭が混乱した。次第にインコ・文鳥用のエサは与えてはいけないことが分かった。ツバメはユスリカ、カゲロウ、ハエ、トンボなどの飛翔昆虫を食べる。決してコメ、アワなど植物の種を与えてはいけない。

屋外に出てトンボ、蝶、ハエ、バッタをとりに行った。私は室内職であまり外に出たことがなく、昆虫採取はとても大変だった。心が痛む行為ではあるがショウリョウバッタは固い脚や頭部は取り除き、蝶やトンボは羽を取り、胴体を 3～4 等分して与えた。ヒナは昆虫を与えても与えてもペロッと食べた。生きることに一生懸命な姿に心を奪われた。

スプーンで水を与えてはいけないことも分かった。ヒナは必要な水分をエサである昆虫から摂取している。そのため、水分を与えすぎると下痢を引き起こし、場合によっては死に至る可能性がある。どうしても水分が必要なときは、クチバシを閉じているときに、細いスポイトなどを用いてクチバシに水を 1～2 滴しみ込ませる。口を大きく開けたときに水を与えると、気管に入る危険性がある。大口を開けなくなり小口でつまんで食べれるようになると、自分で水を飲むようになる。

## 8　　時

調べていくうちに巣ごと落ちた場合、素早くカップ麺などの容器で簡易巣を作り、その中にヒナを入れて元の場所に戻すと、親鳥がエサを運び続けることが分かった。

早速カップ麺容器の底に布を詰め、わらや枯れ草、細かく刻んだ新聞紙を入れてヒナを元の場所に戻した。しばらく離れた場所から観察していたが、親鳥が戻ることはなかった。親がエサを運んでくれないので、この間もエサを与え続けた。戻した2羽のヒナのうち、もう1羽は巣の中で死んでいた。

簡易巣は深すぎても浅すぎてもよくないそうだ。深すぎると親が怖がって近づかなかったり、ヒナが成長すると糞を巣の外に落とすことができなくなる。浅すぎるとまた落ちたり、ヒナの数が少ないと外気に触れやすく体を温めることができなくなる。野生のツバメのヒナは、巣の中で兄弟が寄り添って温め合っている。

## 9　時

親鳥は 2 階のベランダに新たな巣を作り始めた。そこにも簡易巣を設置したが親はヒナに見向きもしなかった。後で分ったことだが、いったんヒナを親から離し数時間経過すると、親は自分の子と認識できず親子の関係が切れてしまうそうだ。

「このまま放っておけば、小さなヒナは確実に死んでしまう」ヒナの無垢な瞳はまっすぐに私を見つめ、大きく口を開けてジージーとエサをせがんでいた。ヒナは一生懸命に生きようとしていた。私は迷うことなく自分で育て上げ、野生に帰すことを決心した。ヒナに明るい未来を見据えて「ひかる」と名付けた。

簡易巣設置

2 階のベランダの新たな巣

## 10　時

ミルワームを買いに行った。ペットショップのミルワームは太くて長かった。食べにくそうだったので2～3 等分して与えた。親鳥はヒナの成長具合で昆虫を選び分けるという。ヒナが小さいうちは、ユスリカやカゲロウなど小さいサイズの虫を与える。大きくなるにつれ、トンボや蛾など大きい虫を与える。

すぐにエサが手に入らない場合は、動物性タンパク質が多い食品を一時的に与えても良いそうだ。家庭内で探せば、ゆで卵の黄身や鶏肉（ゆでたものをすり身の団子にする)、お湯でふやかしたドッグフード、赤ちゃん用のビスケット（砕いて、水で練って団子にする)など。

ただし、代用品は圧倒的に栄養素が不足しているので速やかに昆虫を与えることが大切である。どうしてもエサを食べない場合は、ブドウ糖液(スポーツドリンク、砂糖水など)をクチバシに 1～2 滴しみ込ませる。

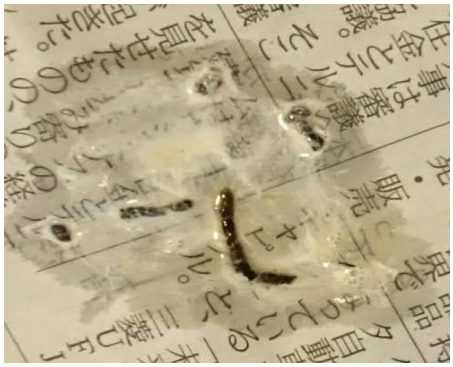
6 月 12 日(金) 孵化後 7 日令

インターネットショップのミルワームを買った。届いたミルワームは、一口で食べられる 1 センチ程度のものだった。ひかるは一度に何十匹も食べた。強いあごを持つミルワームは、頭をつぶし必ず殺してから与えた。

エサをミルワームに変えてからは、糞は下痢のような状態から白くてプルプルの丸い塊へと変化していった。つまんでも崩れることはなかった。糞の中には褐色のミルワームが消化されずにそのままの姿で出てきた。

どうやらミルワームの外骨格は消化されにくく、巣立ち前のヒナや巣立ち直後のヒナ、衰弱した鳥にはあまり与えない方が良いことが分かった。ただし、生きた昆虫が手に入らない場合、緊急時には良いエサとなる。また、ミルワームを多給すると栄養障害を起こし、眼が腫れてきて衰弱する。私はひかるの瞳孔が指の動きについてくるかどうかを常に確認した。

状態の良い糞
糞は健康状態を知る手がかりとなる



未消化のまま排泄された
褐色のミルワーム

6 月 13 日（土）孵化後 8 日令

ゆで卵の黄身をすり潰し小さな団子にして与えた。ノドに詰まらないように少量ずつ間隔をあけて与えた。

「すりエサ 5 分」や「粒エサ」を与えた。水を少し加えて耳たぶほどの柔らかさに練り、小さな団子にして与えた。「すりエサ 5 分」や「粒エサ」単独ではあまり食べなかったので、黄身を混ぜ合わせて与えた。「すりエサ」は腐りやすいので一日に何度か作り替えた。

腐ったエサを与えると感染症や内臓疾患になることがあるそうだ。エサは実際に臭いを嗅いでみることが必要である。また、保存のために冷蔵庫に入れておいたエサは、人肌程度に温めてから与えることが大切である。

夜、紫外線虫取り器を庭に数カ所設置した。朝方、回収に行くと虫がたくさんとれていた。蚊など小さな虫は死んでいたが蛾は元気に生きていた。大好物の蛾を毎朝 20 匹ほど与えた。エサは自然界の昆虫を中心に、ゆで卵の黄身を加えた「すりエサ 5 分」、「粒エサ」とミルワームを与えることにした。

すりエサ 5 分

粒エサ

紫外線虫取り器

**6 月 14 日（日）孵化後 9 日令**

野生のツバメを観察していると、親鳥は日の出から日没まで、ひっきりなしにエサを運んでいる。私はツバメの生活スタイルに変え毎朝 4 時 30 分に起き、親鳥に負けてなるものかと日が昇ると同時に昆虫採取に行った。夕方も行った。

ひかるには朝から晩までエサを与えた。最低でも 30 分おきに与えた。口を開けるあいだはエサを食べるだけ与えた。食べ過ぎの危険性よりエサ不足の危険性の方が高いそうだ。夜は自然界に合わせて 19 時過ぎに就寝させた。

鳥かごを買いに行った。ひかるを鳥かごに入れて職場と自宅を行き来した。鳥かご中央上部には簡易巣を置いた。底には落ちて体を傷めないようにタオルを敷き、その上には小さく丸めた新聞紙を一面に置いた。

ひかるは巣の縁にお尻を突き出し、巣が汚れないように糞を巣の外に落とそうとしていた。ヒナの本能に感動した。しかし体が小さいひかるは、それが上手にできず巣の縁に糞がついた。

ヒナはエサを与えるたびに糞をする。ヒナを育てる環境は温度、湿度が高く細菌が繁殖しやすい。感染症予防のためにも巣は清潔に保った。親鳥はヒナの糞を口にくわえて離れた場所へ捨てに行く。

## 6月15日(月)孵化後10日令～18日(木)孵化後13日令

食欲旺盛で糞の量がますます増えてきた。大きく口を開けてエサをせがまれると、母性本能が刺激されるのか「エサをとりに行かなくちゃ！」という強い衝動にかられた。成長するにつれエサの要求量が増え、昆虫採取とエサやりに大忙しだった。

翼の羽の棒状の先から白いトゲのようなものが伸びてきた。白いトゲのようなものは、羽鞘(うしょう)という羽毛を包み込んだものらしい。羽毛は羽鞘という白い筒状のサヤに包まれて生えてくる。成長するにつれ、羽鞘の先端から羽毛が現れ、徐々に羽鞘がはがれ落ち黒い羽毛になっていく。

写真1 [1)]　孵化後9日令

写真2 [2)]　孵化後11日令

写真3 [3)]　孵化後14日令

写真4 [4)]　孵化後16日令

## 6月19日(金)孵化後14日令～21日(日)孵化後16日令

ずいぶん羽鞘がはがれ落ち、全体的に黒くなってきた。羽づくろいを入念にするようになり、翼をバタバタさせてエサをせがむようになってきた。

日中は親鳥が繁殖中の2階のベランダに鳥かごを置いた。親はひかるに無関心だった。ひかるも親に全く反応せず、私が近づくとジージーとエサをせがんだ。自分をツバメと認識していないようだった。ひかるは目が開く前から人間に育てられ、親兄弟の顔を知らない。きっと私を親だと思っているのだろう。

夜はまだ冷えるので、お湯を入れたペットボトルを鳥かごの周りに置いた。熱くなりすぎないようにペットボトルを新聞紙にくるみ、お湯が冷めたらこまめに取り替えた。カイロやエアコンも必要に応じてつけた。

簡易巣の底にカイロを張り、鳥かごの温度が 30℃前後になると、翼を広げて口をパクパク開閉して呼吸をするようになった。表情を見ると苦しそうだった。急いでカイロをはずし、うちわで風を送った。暫くすると口を閉じ、呼吸は安定してきた。わずか 1 週間で羽がずいぶん生えてきたので暑かったのだろう。

ヒナは孵化してから 10 日目くらいまでは変温動物の状態であるが、育つにしたがい恒温動物らしくなるそうだ。ヒナが成長するにつれ、ヒナの様子をよく観察しながら温度調節しなければならないことに気がついた。参考までに、寒いときは羽毛を膨らませて顔を翼にうずめていた。

## 「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」との出会い

### 6 月 22 日(月)　孵化後 17 日令

数日前インターネットで調べていくうちに、ある記録に出会った。

それは、「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」である。この記録は、2003 年京都野鳥の会の会員であるM氏が執筆されたものである。私はこの記録の中に登場するツバメの「ピッピ」と「ひかる」の成長を比較しながら何度も繰り返し読んだ。

### 6 月 23 日（火）孵化後 18 日令

ここ数日、鳥かごに入れて散歩に連れて行った。自宅の位置関係を教えるためと、少しずつ自然界に触れさせたかったからである。ひかるは巣箱の中で大人しくしていた。ひかるに語りかけた。

「ツピー、ツピー（警戒）カラスだ。黒くて大きくて怖いね」
「トンボだ。つかまえて食べよう」
「仲間が来た。ツバメだ。ひかるはツバメなんだよ」

これらの発言が教育になるとは思っていないが、すがる思いで常に語りかけた。ここで「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」の一部をご紹介したいと思う。

「私たち人間がツバメの雛を育てることができても、人間には巣立ち後の子ツバメに対して援助や教育ができません。ツバメの巣立ち雛の放鳥のそこの問題が一番難しいところであり悩むところであります。私は、ツバメの雛については『安易な放鳥』が『死出の旅』にならないかと心配するのです」[5)]

この言葉が胸に突き刺さった。初めて、「ツバメの巣立ちヒナの放鳥を成功させることの難しさ」を知ったのである。M氏は野鳥保護のスペシャリストであり、私はぜひともご指導いただきたく思った。

6月24日（水）孵化後19日令

大変失礼ながら、思いきってM氏に電話をしました。見ず知らずの私に親身に相談にのってくださった。生態系と食物連鎖、保護の理由や必要性、ツバメの生態、食性、エサの工夫、巣立ちヒナの飼育上の注意点などを教えていただいた。

・ヒナを拾ってしまったら、適切な保護・飼育をして野生復帰できるようにしなければならない。
・野生復帰させるには、ヒナの健康状態、精神状態が完璧でなくてはならない。
・保護の成功とは放野してのち、その個体が自然の中で生き延びていくことである。

私はM氏のご指導をもとに、ひかるを野生復帰させるための入念な計画を立てて育てていった。

## 【エサの工夫と改善】

6月25日(木)孵化後20日令

### ① ミルワームに与えるエサを改善

ミルワームがフスマ（小麦を製粉するときに除かれる皮の部分）で飼育されていると、フスマに含まれているフィチン酸はヒナの発育に有害となる恐れがある。フィチン酸はヒナの成長および健康維持に必要不可欠なミネラルを吸着し、体外に排泄する。栄養不足を補うためにミルワームに小松菜やドッグフードを与えた。ミルワームは雑食性で柔らかい澱粉質、蒸したジャガイモやパンも食べるそうだ。ミルワームは販売時冷蔵庫保存され発育を止められているが、ヒナに与えるときには室温にて脱皮・成長させ、白くて柔らかい幼虫を選んだ。

### ② ヨーロッパイエコオロギに与えるエサを改善

昆虫採取できないときのために、ヨーロッパイエコオロギMサイズ（10～15ミリ）を買った。コオロギには人工エサだけでなく、小松菜や大根菜、白菜を与えた。ヒナには脱皮したばかりの白くて柔らかいコオロギを与えた。

### ③ 鳥類用栄養補助食品（ネクトンＳ）

エサを与えるときには必ず「ネクトンＳ」を添加した。人間の飼育ではどうしても栄養の問題が出てくる。ヒナには鳥類にとって必要不可欠なビタミン類やアミノ酸、ミネラルなどの栄養素が必要である。

ミルワームに小松菜を与える

ヨーロッパイエコオロギ

鳥類用栄養補助食品
ネクトンS

6 月 26 日(金)孵化後 21 日令

翼の羽は綺麗に生えそろった。鳥かごを一回り大きなものに変えて止まり木を置いた。ひかるは巣から出て、昼も夜も止まり木の上で過ごしていた。羽づくろいや羽ばたきを頻繁にするようになってきた。

6 月 27 日(土)孵化後 22 日令

羽ばたきが力強くなってきた。いつ飛んでも危険がないように注意が必要だった。一般的にツバメのヒナは孵化後 20 日～24 日で巣立つようだ。

あまりエサを食べなくなってきた。巣立ちの時期は食欲が落ちることがあるそうだ。エサの好みがはっきりしてきた。自然界の昆虫は小さな蝶や蛾、トンボ、ハエが大好きだった。バッタやコオロギはあまり好きではなかった。生きエサはミルワームが大好きだった。ゆで卵はどんなにお腹がいっぱいでも別腹のようだった。

## Ⅲ 巣立ちから放鳥まで

**【巣立ちヒナの飼育上の注意点】**

「ツバメは自然界では日中ほとんど飛翔しています。そのため、保護飼育中に飛翔力をつけなければなりません。籠での飼育は不適切であるので飛翔できる広い室を用意しなければなりません。また、ツバメは夏鳥であるので秋までに放鳥しなければなりません。秋には『渡り』をするので、それまで健康状態は完璧にたもたれなければなりません」[6)]

6 月 28 日(日)　孵化後 23 日令　巣立ち 1 日目

飛ぶ練習ができるように和室をひかる専用の部屋にした。畳の上には新聞紙を敷き詰め、体を傷めないように置物は片づけた。

電線にみたてたロープや素材の違うロープを３本張った。鳥かごのフタを開けると、待っていたかのように飛び立った。フラフラと直線的に少し飛んだ。昼も夜も鳥かご飼いをせずに育てた。私の外出時は和室で、家にいる時は和室から玄関につながる引戸を解放して放し飼いにした。不慮の事故が起こらないように常に行動を見守った。風通しを良くして真夏でもエアコンを使わない状態に保った。

巣立ちを終えたひかるは一日中自宅の和室で過ごすことになった。平日は、エサは１時間半に１回程度しか与えることができない。そこで、ひかるのお気に入りの場所（一番高い位置に張ってあるロープの端）に紙皿を貼りつけエサを置いた。
エサは粒状にしたゆで卵とミルワームである。テーブルの上にもエサと飲み水、浅くて大きな皿に水浴び用の水を置いた。この日は、明日からの予行練習のため、
ひかるが自分でエサを食べれるかどうかを観察した。

ひかるは目の前に大好物のエサが置いてあっても自分からは食べなかった。水を飲むことも水浴びすることもできなかった。私が戻ってくるのをずっと待っていた。ひかるは自宅の鍵を開ける音だけで私が戻ってきたことが分った。「チュイ、チュイ」とエサをせがむ大きな声が玄関まで聞こえてきた。和室の扉を開けると、一目散に肩や腕に飛び乗ってきた。きっと、お腹が空いてたまらなかったのだろう。

これらを考慮して「ひとりエサ」の訓練を始めた。ひかるを腕に乗せてエサのある場所まで連れて行き、腕を皿の近くに置き、腕から皿へと自ら移動してエサを食べに行くように導いた。根気強く、何回も何回も行った。

ひかる専用の部屋

巣立直後

白いミルワームを与える

6月29日(月)　孵化後24日令　巣立ち2日目

少し曲がって飛ぶことができるようになった。朝方、散歩に連れて行こうとした。鳥かごに入るなりキーキーと奇声をあげながら暴れた。鳥かごは翼を広げても柵には触れることがない十分な大きさだったが、柵は硬い金属でできていた。翼が柵に挟まり羽の先が傷ついた。ひかるに対して申し訳ない気持ちになった。

自然界では健康状態が完璧でないと生きていけない。たった1枚の羽の損傷がヒナの生存を左右する。巣立ちヒナを移動するときの入れ物は、体が丁度収まる程度の箱が適しているそうだ。例えば、お菓子の空き箱や小さなダンボールの箱など。入れ物が大きいと暴れたときに翼や尾羽、クチバシを傷める。

6月30日(火)孵化後25日令 巣立ち3日目～7月3日(金)孵化後28日令 巣立ち6日目

室内を回転して飛ぶようになった。翼と尾羽が伸びてきて体がシャープになってきた。室内を飛ぶ小さな飛翔昆虫が気になるようになってきた。

野生の本能を失わないように、エサはできるだけ自然な姿で与える訓練を始めた。心が痛む行為ではあるが羽の一部を取り除き、動きが鈍くなった蝶や蛾、トンボ、バッタをテーブルの上に置き、エサを自分で探して取りに行かせた。ひかるは昆虫を1匹捕まえて食べるのにとても時間がかかった。ツバメの脚は短くて細く、歩くことはとても苦手なようだ。

## 【発育状態、飛翔能力の確認】

7月4日(土)孵化後29日令　巣立ち7日目

大口を開けなくなり、小口でつまんで食べれるようになってきた。差しエサが難しくなり受け渡しの失敗が多くなった。食べる量が減り体重が落ちてきた。大きなコオロギが食べにくそうだったのでSサイズ（5～10 ミリ）に変えた。小さなコオロギに変えてからは、頭部や脚を取り除かず丸ごと食べてくれた。

野生の巣立ちヒナと比較すると、ひかるの体格は少し華奢な感じがした。どんなに頑張ってもエサの量や質（多様なエサ）は親鳥には及ばない。体重は17グラム。放鳥までにもう少し体重を増やしたい思いで、根気強く差しエサを続けた。

7月5日(日)孵化後30日令　巣立ち8日目

口元に皿を近づけると、自分から水を飲んだり水浴びするようになった。私がいなくても、皿の上のゆで卵をつまんで食べれるようになってきた。ミルワームは自分からは食べなかった。

網戸の隙間から蚊が入ってきた。蚊は私の血を吸おうと腕の周りをウロウロしていた。両手が塞がっていて蚊を叩きたくてウズウズしていると、肩に乗っていたひかるが腕まで降りてきて、数匹の蚊をあっというまにパチッ、パチッとクチバシを鳴らしながら食べてしまった。野生の本能がどんどん芽生えてきた。

室内を自由自在に飛び回ることができた。狭い室内ではあるが大きく旋回したり小さく旋回したり、飛ぶ速度を速くしたり遅くしたりすることができた。壁にぶつかりそうになるとホバリングに切り替えることもできた。

## 【放鳥時期、放鳥場所の選択と決定】

「ツバメの雛の発育が十分に達成されたとき、飛翔が十分にできることが確認できるまでは放鳥することはできません。ツバメの巣立ち雛の放鳥には、まず放鳥時期や放鳥場所を決めることで悩まなければなりません。私は大の鳥好き人間ですから、放鳥後、無事生き延びていけるかということを考えると大変悩みます。ツバメは、自然界では餌となる飛翔昆虫を捕食しなければならないからです」[7)]

**7月6日(月)孵化後31日令 巣立ち9日目～11日(土)孵化後36日令 巣立ち14日目**

ずっと放鳥場所をどこにするか悩んでいた。何度も現地調査したが、いまだに決断することができなかった。【人間に育てられたツバメは、自然界を生き延びていくことができるのか】何度も自分に問いかけた。心配したらきりがなかった。

① エサ（飛翔昆虫）を十分にとれるのか。
② 水面を飛びながら水を飲んだり、水浴びすることができるのか。
③ ねぐら（鳥の寝る所）を見つけることができるのか。
④ 仲間をすぐに作れるのか。
⑤ 敵の攻撃から身をかわすことができるのか。

### 1. 自宅から放鳥

【利点】 ・小範囲だがエサ場がある。小さな家族集団がある。
・放鳥後の援助ができる（ひとりで十分なエサがとれなかった場合エサの提供ができる。ねぐらを見つけることができなかった場合寝床の提供ができる）

【欠点】 ・ツバメの数が少ない。(野生のツバメを手本にして、実際に見て真似しながら学習できる機会が少ない。
・川がない。用水路があるだけ。

## 2. 職場から放鳥

【利点】 ・保護した場所であり血の通った親兄弟がいる。
・小範囲だが川やエサ場、小さな家族集団がある。

【欠点】 ・時間が経っているので親兄弟に受け入れてもらえない可能性が高い。
・放鳥後の援助が難しい。

## 3. 集団ねぐらから放鳥

集団ねぐらは三重県伊勢市の北部、伊勢湾に注ぐ外城田川の河口にある中州である。中州は人の手が入っていない自然豊かな場所である。

外城田川河口の中州　三重県庁ホームページより引用

【利点】 ・エサ、川、葦原があり環境がよい。
・夕方以降はツバメがたくさん集まるので学習する機会が多い。
・たくさんの仲間と夜を過ごすことができる。

【欠点】 ・日中ツバメがほとんどいない。
・野鳥のねぐらでもあるので外敵が多い。
・自宅から離れているので放鳥後の援助ができない。
・放鳥して戻ってこなかったら、自分の力だけで生き延びていかなければならない。

**7 月 12 日（日）孵化後 37 日令　巣立ち 15 日目**

M氏に放鳥場所について相談にのっていただいた。自宅から放鳥することに決定した。戻ってきたら食事の提供、寝床の提供をすることになった。

**7 月 13 日(月)孵化後 38 日令 巣立ち 16 日目～14 日(火)孵化後 39 日令 巣立ち 17 日目**

今年は梅雨明けが遅く放鳥時期が長引いていた。ひかるは寂しそうに一日中空を眺めていた。後ろ姿からは生きる力、生きる喜びを感じられなかった。早く自然の中を自由に飛ばせてあげたかったが決心がつかなかった。

寂しそうに空を眺める

**7 月 15 日（水）孵化後 40 日令　巣立ち 18 日目**

ひかるはずいぶん前に巣立ちを終え、室内を 18 日間も自由に飛んでいた。そんなある日、事件が起きた。ひかるの部屋に黒くて大きな脚立を運んだ。カラスや鳶など敵だと思ったのだろうか。脚立を見るなりキーキーと奇声をあげながら何十周も飛んた。

・ひかるの飛翔能力は十分にある。
・室内を飛んでいる蚊をつかまえることができる。
・「ひかる」と呼ぶと、必ず腕に戻ってくる。

これらの行動を考慮して放鳥を決断した。梅雨明けは予定では 8 月上旬。それまで待てない。雨の合間をぬって訓練しよう。このまま狭い室内にひとりで閉じ込めておくのは精神状態、健康状態に良くないと思ったからである。この頃、ひかるの後頭部には丸い「おはげ」ができていた。何らかの栄養障害かストレス、日光浴不足かもしれないと思った。

## Ⅳ 放鳥から野生復帰まで

### 【野生復帰訓練と自然界での試練】

「子ツバメが巣立ち直後からひとりで飛翔昆虫を捕食して生き延びていくことは非常に困難とおもわれます。しばらくのあいだ親ツバメが子ツバメに餌を与えます。子ツバメは親ツバメの援助を受け、学習して少しずつ生きる力をつけていきます。そして、捕食能力がつきやっと一人前になりますが、その時点で独立するわけではありません。ツバメは、子ツバメ同士または親ツバメを含めての集団で生活します」[8)]

## 1. 飛翔訓練、採餌訓練

### 7 月 16 日（木）孵化後 41 日令　放鳥 1 日目

飛翔能力、採餌能力を高める訓練を始めた。自然界に慣れさせるために、まずは自宅から放鳥した。庭で休憩できるようにロープを張った。窓を開放し、信頼関係が失われないように自らの意志で飛び立つのを待った。しかし、その気配は全くなかった。私は庭に出て大好物のゆで卵を見せながら「ひかる」と呼び、外へ誘い出そうとした。

暫くすると飛び立ち庭のロープに止まった。体を細長くして周囲の様子を伺っていた。次は電線に止まった。すると、1 羽の子ツバメが近くに寄ってきて隣に止まった。仲良くなれる絶好のチャンスだったのに子ツバメに驚いて逃げてしまった。今度は木の枝に止まった。すぐに大きなカラスが飛んできて慌てて逃げた。遠くからヘリコプターがバタバタバタと凄まじい音を立てながら飛んできた。ひかるはそのプロペラ音に驚いて屋根の上で固まっていた。

ひかるは自宅周辺を少し飛んでは電線やロープ、木の枝、屋根の上で休憩し、約 1 時間後私の腕に戻ってきた。翼を胴体から離し、口をパクパク開閉して呼吸が荒かった。ひかるは飛ぶ能力が低く飛び続ける体力がなかった。室内で何十周飛べたとしても、自然界で飛ぶこととは条件が全く異なることに気がついた。風向、風速、風は常に変化している。ひかるは翼をバタバタさせて低く飛ぶことはできるが、風の力を借りて飛ぶことはできなかった。この日は初めて経験することばかりで恐怖と驚きの連続だったのではないだろうか。

巣立ったばかりのヒナを放鳥することは「未知の世界、食うか食われるかの世界に送り出すこと」「放鳥してから暫くは、子ツバメが生き残るのに一番大変な時期である」ということを改めて気づかされた。

体を細長くして様子をうかがう

ゆで卵めがけて突進

ロープの上で休憩(口をパクパク開閉して呼吸が荒い)

**7 月 17 日（金）孵化後 42 日令　放鳥 2 日目**

この日も自宅から放鳥した。尾羽の長い大人のツバメに執拗に追いかけられ何度か体当たりされた。初めは寄り添って飛んでくれていると思ったが、観察を続けるとそうではなかった。自分のテリトリー内に侵入してきた他のツバメに対して外に出て行くようにと嫌がらせをされたかのようだった。

ひかるは嫌がらせをされても身をかわすことはできなかった。フラフラと低くしか飛べないひかるをグルグル追い回した。私は危機せまるものを感じ、逃げ惑うひかるをハラハラしながら目で追い続けた。ただ見ていることしかできない自分が情けなかった。腕に戻ってきたときには、伸びかけていた尾羽（尾が二つに長く枝分かれした部分）の一部が抜けていた。

**7 月 18 日（土）孵化後 43 日令　放鳥 3 日目**

大人のツバメに嫌がらせをされたことで精神が萎縮してしまった。外に行こうと誘っても、和室の長押(なげし)の隅にうずくまっていた。この日の訓練は中止した。

**7 月 19 日（日）10 時～12 時　孵化後 44 日令　放鳥 4 日目**
**自宅→近くの雑木林**

M氏に相談にのっていただいた。場所を変えて訓練することになった。
自宅で放鳥し、ひかるを歩きながら雑木林まで誘導した。雑木林まで徒歩 5 分。
私はひかると一緒に飛ぶことができない。空を見上げ両手を大きく振り「ひかる」と大きな声で呼びながら誘導した。ひかるは空から後をついてきた。「ひかる」と呼ぶと「チュイ」と必ず返事をした。「お母さん、僕はここだよ」と自分の居場所を教えるかのようだった。

雑木林まで行く途中、ひかるに話しかけながら歩いた。「ここにマンションが 2 棟あるよ。この先に太陽光パネルがあるよ」これらの建物は、ひかるが自宅に戻ってくるときに目印になると思われる。

雑木林に到着した。空では 3～4 羽の子ツバメが親鳥からエサをもらっていた。ここで 2 時間ほど自由にさせて観察した。この日は、半径 100m程の円を描いて飛べるようになった。ここにはセキレイのカップルが飛んでいて、突然ひかるの後を小さな円を描くかのように追い回してきた。親兄弟がいない子ツバメが自然界を生き延びていくことの厳しさを目の当たりにした。

**17 時～19 時　自宅→近くの雑木林→田園地帯**

少しずつ距離を伸ばしていき新しいエサ場を教えた。自宅で放鳥し、走りながら雑木林を通過して田園地帯まで誘導した。田園地帯まで走って 10 分。

私は全力で走った。しだいに足がついてこなくなり息をハアハアしながら歩いていると、ひかるが近くに寄ってきて「チュイ、チュイ（お母さん大丈夫？）」と気遣ってくれた。どんなに早く走っても空を飛ぶツバメのスピードには到底かなわない。ひかるは走るスピードに合わせて、私の周りを旋回しながらついてきた。

田園地帯に到着した。数羽のツバメが近くに寄ってきて一緒に飛んでいたが、中には嫌がらせをするツバメもいた。大人のツバメだった。自然界では親兄弟のいない子ツバメは、大人のツバメから嫌がらせをうけるのだろうか。インターネットの情報によると「ツバメにはヘルパー制度があり、親兄弟でもないツバメが子ツバメを援助する」と記載されてあったが、今のところ「ヘルパーツバメ」はいないようだった。

しだいに風が強くなり、差し伸べる腕に戻ろうとしても風の抵抗を受けて戻ってこれなかった。ひかるは私の周りを旋回しながら何度も何度も着陸態勢をとった。二人とも必死だった。やっと腕に戻ってきたときには思わずひかるを抱きしめた。「ひかる、よく頑張ったね」

強風で腕に戻ってこれない

やっと戻ったひかるを思わず抱きしめる

7 月 20 日（月）孵化後 45 日令　放鳥 5 日目

同様の訓練を行った。ひかるは田園地帯がとても気に入ったようだ。障害物のない広々とした世界を楽しそうに飛んでいた。野生のツバメにつられて半径 500m程の大きな円を描いて飛べるようになってきた。

田んぼにはいつもツバメがいた。ツバメたちは稲の上を行ったり来たりしながら飛翔昆虫や稲につく害虫をとっていた。急旋回したり、中に突っ込んだり、自由自在に飛び回っていた。ひかるは、そのテクニックを一生懸命に真似しているように見えた。

この日は嫌がらせをするツバメがいなかった。仲間に入れてもらえたのだろうか。日没後ツバメたちは一斉にねぐら方面へ飛んでいった。ひかるも一緒に連れて行ってもらえるかと期待したが私の腕に戻ってきた。帰宅して室内に入ると翼をバタバタさせてエサと水をせがんた。まだ飛ぶことに精一杯でエサは捕れていないようだ。

翼をバタバタさせてエサをせがむ

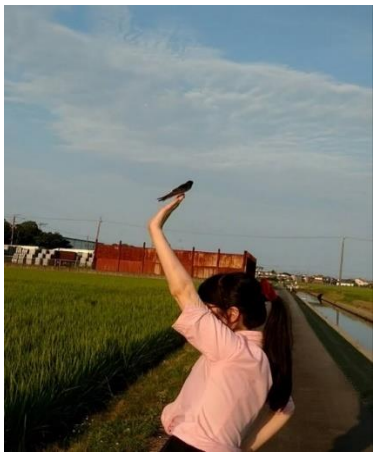
立て続けに、水を 3 口飲む

7 月 21 日(火)孵化後 46 日令 放鳥 6 日目～22 日(水)孵化後 47 日令 放鳥 7 日目

朝方と夕方、訓練を行った。日に日に空高く、力強く飛べるようになってきた。姿が見えなくなるほど遠くまで飛ぶことができるようになった。飛び方がバリエーションに富んできた。飛び続ける体力、風をよむ力もついてきた。嫌がらせをされても身のかわし方を習得したようだ。

ひかるが戻ったらケガをしていないか必ず確認をした。というのは、脚に糸のようなものが絡まっていたり、目に何かが入ったのか片目をパチパチしていたことがあったからである。放鳥してからは、何が起こっても不思議ではないと覚悟はしていたものの、無事に戻るまで心配でたまらなかった。

後頭部の「おはげ」は放鳥してからみるみるうちに改善し、美しい羽が生えてきた。それにしても私は今までに昆虫を何匹捕まえただろうか。ひかるが野生復帰したらお寺へ昆虫供養に行こうと思った。この頃、妙なうわさを耳にした。「いつも空を見上げて『ひかる』と大声で叫んでいる女性がいる。変な人がいるね」と。


さあ、飛び立って！

羽ばたく瞬間

手に着陸

しばし休憩

手から飛び立った瞬間

**7月23日（木・祝日）孵化後48日令　放鳥8日目**

**【5　時】**

朝食（蛾、コオロギ、ゆで卵、ミルワーム）、羽づくろい。

**【5時30分】**

今までは、雨の合間をぬって訓練してきた。野生のツバメは雨でも飛んでいる。この日も雨のなかツバメが飛んでいて、ひかるは外に出たそうだった。遠くを眺めると晴れ間がのぞいていた。思い切って窓を開放した。ひかるは迷うことなく飛び立ち、教えた雑木林を通過して田園地帯へと消えていった。

【10 時～16 時】

ひかるが庭のロープに止まっていた。「チュイ、チュイ」と鳴き声で戻ったことを知らせてくれた。「おかえり」と話しかけると室内へ入ってきた。しっかりと、ひかるは家を覚えてくれていた。私はホッとした。

この間、30 分毎にエサ（コオロギ、バッタ、ゆで卵、ミルワーム）を与えた。さえずり、水浴び、羽づくろいを入念にしていた。さえずりは野生のツバメと変わらないくらい上達してきた。水浴びは毎日していた。

【 16　時 】

再び、教えた田園地帯へ一直線に飛んでいった。

【18 時 30 分】

ひかるが室内に戻ってきた。エサと水をせがんだ。

まだお腹を満たすほどエサを捕れていないようだった。

私が一緒についていかなくても、ひとりで外に出て、遊んで、帰ってこれるようになってきた。少しずつ自立心が芽生えてきたのだろうか。

【 19　時 】

ひかる就寝

翼を広げて日光浴

帰宅してからもエサをせがむ

## 2. 自立訓練、社会化訓練

**7 月 24 日（金・祝日）孵化後 49 日令　放鳥 9 日目**

【 4 時 30 分 】

自立、社会化訓練を始めた。夜以外は窓を開放し、自由に出入りできるようにした。徐々に自然界で過ごす時間を増やしていき、野生のツバメに近い生活を送らせた。ひかるがいつ戻ってきても困らないようにエサ（粒状にしたゆで卵）と飲み水、水浴び用の水を置いておいた。

毎朝 4 時 30 分に窓を開け、夜はひかるが戻ってから（19 時過ぎに）閉めた。いつも 5 時頃になると、ねぐら方面から 10 羽ほどのツバメが訪れる。ひかるは朝食を少し食べ、5 時過ぎには飛び立った。

**【11 時～15 時 30 分】**

庭でキーキーと鋭い声がした。急いで見に行くと、庭のロープにひかるが止まっていた。最初はチュイと可愛い声で戻ったことを知らせてくれたのだろうが、私が気がつかなかったので鳴き方を変えたのだろう。自我が芽生え、個性が強くなってきた。この間 30 分毎にエサを与えた。

**【 15 時 30 分 】**

やはり教えた田園地帯へ一直線に飛んでいった。子ツバメは親が教えたエサ場しか行かないのだろうか。自分で行動範囲を広げることはできるのだろうか。

**【 18 時 45 分 】**

ひかるが室内に戻ってきた。エサと水をせがんだ。

この日も、満足いくほどエサを捕れていないようだった。

**【 19 時 15 分 】**

ひかる就寝

室内でくつろぐ

キーキーと鳴き帰宅を知らせる

**7 月 25 日（土）孵化後 50 日令　放鳥 10 日目**

自宅周辺のツバメが減ってきた。尾羽の長い大人のツバメを見かけなくなった。

ここ数日、ひかるが戻るたびに糞の写真を撮った。エサをどの程度とれているのか確認するためである。糞を観察すると昆虫が混じっていた。少しずつエサを捕れてきているようだ。しかし戻ってきたときの糞は、いつも水分がない硬い状態が多かった。ひかるは、まだ自然界で水を飲む方法を知らないかもしれない。自宅周辺には川がない。ひかる自身が行動範囲を広げるのを待つか、川のある新しいエサ場を教えるべきか悩んだ。

水分のない硬い糞

拡大写真

**7 月 26 日（日）孵化後 51 日令　放鳥 11 日目**

いつもと帰宅方法が違っていた。今までは、庭のロープに一旦止まってから室内に入ってきた。この日は、上空から猛スピードで飛んできて直線的に急降下して室内に入った。畳の上に激突しかけて大けがをするところだった。私はこの行動が、「ねぐら入り」する姿(葦原へ急降下する姿)と重なった。この行動は本能によるものなのか、「ねぐら入り」の方法をどこかで見て知っていたのか。いずれにしても、室内で眠らせることは卒業の時期なのだろうか。私は頭を抱えた。

① 自宅周辺のツバメの数が減ってきた。
② 雨の日でもエサに困らないように、川の水面から発生する飛翔昆虫（カゲロウ、カワゲラ、トビケラ等）を捕まえる方法を学んで欲しい。
③ 水面を飛びながら水を飲んだり、水浴びする方法を学んで欲しい。
④ たくさんの仲間と夜を過ごす場所を覚えて欲しい。
⑤ 仲間とコミュニケーションの取り方を学んで欲しい。

これらを考慮して「ねぐら」を教えることにした。私は今までの訓練をとおして、「ひかるは、必ず私の後を空からついてきてくれる」と信じていた。

## 【 地図の解説 】

**自宅→（旧）北浜中学校→村松漁港→有滝漁港**

3 回に分けて「ねぐら」を教えた。少しずつ距離を伸ばしていき位置関係を記憶させた。ねぐらの場所は、自宅から車で 4.5 ㎞ほど離れた有滝漁港近くの葦原である。ここは偶然見つけたねぐらである。放鳥場所に悩み「集団ねぐら(外城田川河口の中州)」周辺を現地調査していたときに発見した。中継点はランドマークがある場所を選んだ。

有滝漁港は伊勢湾に注ぐ外城田川河口の左岸に位置する。ここには葦原が生育していた。海岸線には長い堤防があり防風林、雑木林が生い茂っていた。周辺には田園地帯が広がっていた。ここは繁殖中のツバメが多く、一日中たくさんのツバメが飛んでいた。特にこの時期は、巣立ったばかりの子ツバメが多かった。

野生復帰訓練をするために、事前に、自宅から有滝漁港までの最短距離、住宅が密集していない経路を調べておいた。また、その経路を実際に何回も走行して、ひかるが飛翔するのに安全かどうかを確認しておいた。堤防沿いの直線コースを車で走ることにした。

三重県庁ホームページより引用

7月27日(月) 孵化後52日令 放鳥12日目
1回目の中継点（旧）北浜中学校

【 17　時 】

(旧)北浜中学校まで車でゆっくり走りながら、時には車から降りて誘導した。車窓から大きく手を振り、「ひかる」と大きな声で呼びながら走った。ひかるは「チュイ」と返事をし、自分の居場所を教えながら車の周りを旋回してついてきた。

【 17時15分 】

(旧)北浜中学校に到着した。1時間半ほど自由に遊ばせた。海岸の形や景色、空気、太陽の位置、方角などを覚えてくれることを願った。

ずいぶん飛び方が上達してきた。風に乗って風を切って雄大に飛翔していた。上昇気流に乗って上空へあがっていき、翼を広げたまま流れるように飛んでいる。翼をバタバタさせて低空飛翔していたときに比べ、使うエネルギーがずっと少なくなってきた。ひかるの飛翔姿に、まばたきすることを忘れるほど夢中になった。

【 18時45分 】

(旧)北浜中学校を出発して自宅へ向かった。行きと同じように誘導した。

【 19　時 】

自宅に到着した。エサ（コオロギ、ゆで卵、ミルワーム）と水をたくさんせがんだ。この日以降、私が庭にいると、ひかるはどこからともなくやってきて背中に飛びついた。近所を車で走っていると並行して飛んでくれた。信じられないことだった。車を覚えているのだろうか。ツバメの能力は計り知れないものがある。

【 19時30分 】

ひかる就寝

7月28日(火)孵化後53日令 放鳥13日目～29日(水)孵化後54日令 放鳥14日目

訓練中止。窓を開放して自由に出入りさせた。

7月30日(木)　孵化後55日令　放鳥15日目
2回目の中継点　村松漁港

同様に誘導した。

【 14時00分 】

村松漁港に到着した。

1羽の子ツバメが近くに寄ってきて一緒に仲良く飛んでいた。

【 15 時 00 分 】

帰り道、子ツバメは自宅まで一緒についてきた。ひかるが室内に入ると、
子ツバメは自宅上空をしばらく旋回していたが、ねぐら方面へ消えていった。

## 目的地　有滝漁港

今度は、ひかるを車に乗せて有滝漁港まで行った。

葦　原（ねぐら）

【 17 時 30 分 】

有滝漁港に到着した。ひかるは葦原の方へ飛んでいった。あっという間にツバメがたくさん集まってきた。ここに集まるツバメは飛びながら何でもできる一流の飛翔技術をもった集団に見えた。今のひかるにとって最適な環境だと思われた。ひかるが、そのテクニックを身につけることを願った。

ツバメたちは水面でクルクルと急旋回したり、水に突っ込んだりして飛翔昆虫を捕っていた。飛びながら水を飲んだり水浴びもしていた。無数のツバメが飛び交っていて衝突しないのが不思議だった。時々キーキーという鋭い声が聞こえてきたが、衝突を避けるための警告だろうか。しだいにツバメの声がうるさいほどになってきた。

【 18 時 30 分 】

帰宅するためひかるを呼んだ。大声で何度呼んでも戻ってこない。すでに数えきれないほどのツバメが飛び交っていて、どれがひかるか全く分からない。
「ひかる、ひかる」声が枯れるまで呼んだ。

【 19　時 】

夕闇はしだいに夜の闇へと変わってきた。真っ暗になる寸前まで小さな飛翔昆虫を捕ることができるツバメの能力に感動した。ツバメの大群は空から一直線に急降下して葦原の中へビュンビュンと消え始めた。辺りにはツバメに代わりコウモリが飛び始めた。ねぐら入りしたツバメの声がかすかに聞こえてきた。

【 19 時 30 分 】

辺りは真っ暗になった。ひかるはとうとう腕に戻ってこなかった。もう二度とひかるに会えないかもしれないと思うと、涙が込み上げてきた。その瞬間、M氏のお言葉を思い出した。「放鳥して戻ってこなかったとしても、翌日迎えに行けば会えるかもしれないよ」そうだ！M氏はツバメのピッピを静原で訓練したとき戻ってこなかったときがある。M氏は翌日その場所へ行くと、ピッピと 23 時間ぶりの奇跡の再会を果たせたのであった。私はこの言葉を信じて泣く泣く家に帰った。

7 月 31 日(金)　孵化後 56 日令　放鳥 16 日目

【 3 時 45 分 】

ひかるのお弁当(ゆで卵と水)を用意した。訓練のときは必ずお弁当を持参する。これもM氏の教えである。

【 4 時 30 分 】

有滝漁港までひかるを迎えに行った。

ひとりで誰もいない真っ暗な堤防を車で走ることは、とても怖かった。

【 4 時 45 分 】

有滝漁港に到着した。ひかるに会える！　胸が高鳴った。

【 5 時～6 時 】

ツバメが飛び立たない。なぜだろう。昨夜たくさんのツバメが確かにねぐら入りした。「ひかる、ひかる」大声で何度も呼んだ。堤防には散歩をする人が増えてきた。釣人。海に出る漁師さん。出勤する人。社会が動き始めた。すでにねぐら立ちは完了していたのであった。私は全身の力が一気に抜けぐったりとした。奇跡の再会を果たすことができなかったのである。

【 6 時 15 分 】

帰宅して車を降りると、背中にフワッと何かがとまった。

「ひかる？」「ひかるなの？」その瞬間「チュイ」 聞き覚えのある声がした。

振り返ると、ひかるが背中にしがみついていた。「ひかる、ひかる、ひかる」

嬉しくて 3 回呼んだ。それに応えるかのように「チュイ、チュイ、チュイ」

ひかるも大きな声で 3 回鳴いた。思わず涙がこぼれた。

【 6 時 30 分～14 時 】

昨夜はどこでどう過ごしたのだろう。ねぐらで眠ったのだろうか。ねぐらを追い出され、どこか他の場所で過ごしたのだろうか。飛び立ちを促したが全くその気はなかった。とても疲れているようだった。この間 30 分毎にエサ（コオロギ、ゆで卵、ミルワーム）を与えた。14 時に飛び立つまで、私もひかると一緒にコックリコックリ居眠りした。

【 19 時 30 分 】

この夜も、ひかるは帰ってこなかった。ねぐらで眠ってくれているだろうか。
心配でたまらなかった。

8 月 1 日(土)　孵化後 57 日令　放鳥 17 日目

【 4　時 】

梅雨があけた。ねぐらで眠ったか心配で有滝漁港へ向かった。

【 4 時 35 分～4 時 40 分 】

うっすらと視界が開けてきた。ツバメのおしゃべりが聞こえ始めた。数羽のツバメが飛び立ち、後に続くかのように無数のツバメがねぐら立ちした。あっという間のことで、ひかるを探すことはできなかった。猛スピードで家に帰った。

【 5　時 】

帰宅すると、ひかるは既に室内でゆで卵を食べていた。
「ひかる、一体いつ帰ってきたの？　お母さん心配して探しに行ってたのよ」と話しかけると「チュイ」と大きな声で返事をしてくれた。30 分ほど休憩して飛び立った。

【 5 時 30 分～7 時 30 分 】

ひかるは隣の雑木林で野生のツバメと共に飛んでいた。
仲間に入れてもらえたのだろうか。

【 17 時 30 分～18 時 30 分 】

仕事から帰宅すると、隣の雑木林でツバメが飛び交っていた。
この中にひかるはいるだろうか。

【 18 時 30 分 】

ひかるが室内に戻ってきた。ゆで卵を食べ 30 分ほど休憩した。

【 19　時 】

ひかるが飛び立った。
空を見上げると、1 羽の子ツバメが自宅上空を旋回していた。
ひかるの姿を見つけると、子ツバメは一緒にねぐら方面へ消えていった。

8 月 2 日(日)　孵化後 58 日令　放鳥 18 日目

【 4 時 30 分 】

ひかるが、どの方角から訪れるのか確認するため庭で到着を待った。

【 4 時 50 分 】

3～4 羽のツバメが、ねぐら方面から自宅上空を戦闘機のようなシルエットで一瞬にして通過した。そのあと 5～6 羽が同じようなシルエットで飛んできた。そのうちの 1 羽が、庭にいる私の周りを急旋回して「チュイ」と鳴いた。そしてそのまま一直線に大空へ消えていった。「ひかるだ！ ひかるに間違いない」姿は見えないが、辺りからツバメのおしゃべりが聞こえ始めた。

【7 時～7 時 30 分】

ひかるが室内に戻ってきた。ゆで卵を食べ 30 分ほど休憩して飛び立った。

【18 時 30 分～18 時 50 分】

再び戻ってきた。ゆで卵を食べ 20 分ほど休憩して飛び立った。ひかるが室内にいる間、自宅上空には 5～6 羽のツバメが飛び交っていた。ツバメたちはしだいにねぐら方面へ消えていき、1 羽のツバメだけが残っていた。ひかるが飛び立つとこのツバメは待っていたかのように、ねぐら方面へと一緒に消えていった。

もしかすると、このツバメは 7 月 30 日に訓練したとき、自宅まで一緒についてきたツバメかもしれない。この子も親兄弟がいないのだろうか。私はこの子とひかるが、友達になってくれたらどんなに心強いかと思った。

「子ツバメさん、どうかひかるをよろしくお願いします」心の中でつぶやいた。

## 【野生化しつつあるツバメの生活スタイルと嗜好の変化】

8 月 3 日(月)　孵化後 59 日令　放鳥 19 日目

数日前から、昼夜共に自然界で過ごせるようになってきた。

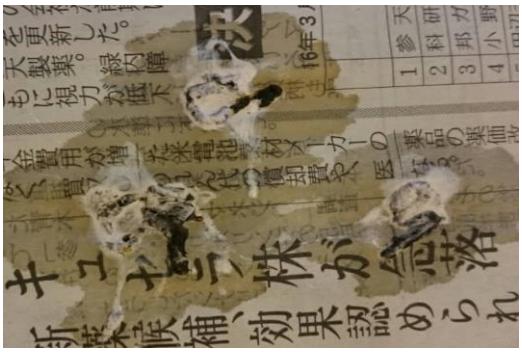
この日は朝方と夕方戻ってきた。ゆで卵を食べ、少し休憩して飛び立った。仕事で留守をしている間も戻ってきているかもしれないが、ゆで卵を食べた形跡はなかった。

ねぐらを教えてからゆで卵しか食べなくなった。大好きだったミルワームやコオロギを全く食べなくなった。水浴びも全くしなくなった。試しにミルワームを与えてみた。嫌々口を開けてくれたがすぐに勢いよく吐き出した。私には「お母さん、僕は空でもっと美味しいものを食べてるよ。ゆで卵は大好物だからちょうだい」と聞こえた。愛おしくてたまらなかった。おそらく飛翔昆虫を十分に捕れているのだろう。

ゆで卵しか食べなくなった

## 8月4日(火)　孵化後60日令　放鳥20日目

この日も朝方と夕方、ゆで卵を食べに戻ってきた。引き続き、ひかるが戻るたびに糞の写真を撮った。野生復帰しつつあるひかるの健康状態を知るためである。エサをどの程度とれているのか。どんなものを食べているのか。水分をとっているのか。下痢をしていないか。内蔵から出血していないか。



## 8月5日(水)　孵化後61日令　放鳥21日目

ここ数日、ゆで卵だけ食べに戻ってきた。その繰り返しの毎日だった。

M氏にたくさんの糞の写真を送り健康状態を確認していただいた。また、心配のあまり「ひかるは自立できるのでしょうか」と尋ねた。すると、このようなお返事をいただいた。「そのうち、きっと戻ってこなくなります。仲間と共に生活をするでしょう。寂しいことですが、いずれ巣立っていくものと心を決めてください」と。

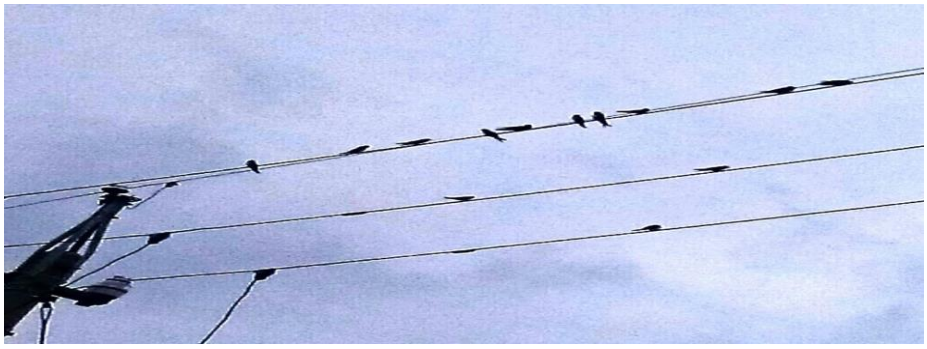
8月6日(木)　孵化後62日令　放鳥22日目

朝方と夕方戻ってきた。慌ててゆで卵を食べ、急いで仲間のもとへ帰っていった。

ねぐらを教えてから精神的に急に成長した。表情や体全体から鋭い気配が漂ってきた。野生のツバメらしくなってきた。室内での滞在時間が短くなってきた。
「ひかる」と呼んでも肩や腕に乗ってこなくなった。ねぐらで、たくさんの仲間と夜を過ごしたことにより良い影響を受けたのだろう。

ひかるの瞳にはもう私は映っていなかった。ゆで卵を食べながら空を舞う仲間のことをしきりに気にしていた。ひかるはとうとう親元を離れ、仲間と共に生活することを選んだのだろう。自然界には野生のツバメがいて「自分がツバメであること。野生のツバメが自分の仲間である」ということを容認できたのではないだろうか。

何より嬉しいことは「やっと、ひかるが野生のツバメに仲間であると受け入れられたこと」である。ここに至るまで、たくさんの試練が訪れた。特に仲間との付き合い方、社会性を身につけることは、ずいぶん苦労したように思う。ひかるはよく頑張った。小さなひかるを思いっきり胸に抱きしめ、褒めてあげたい気分だった。



おそらく、ひかるは上段右から2番目だと思われる

8月7日(金)　孵化後63日令　放鳥23日目

戻ってきたのは夕方1度きりだった。ほんの少しゆで卵を食べ、あっという間に飛び立った。ひかるは高く高く一直線に青い空に吸い込まれていった。
この日を最後に室内へ入ってこなくなった。大好物のゆで卵を食べなくなった。

8月8日(土)　孵化後64日令　放鳥24日目

窓を開放し、ゆで卵を作り続けた。朝方、ひかるは仲間と共に自宅上空を訪れた。私の姿を見つけると、ほんの一瞬庭のロープに止まり大空へ消えていった。

8月9日（日）孵化後65日令　放鳥25日目

朝方、一瞬訪れた。もう腕に乗ることも言葉を交わすこともないが、挨拶だけは律儀にしてくれた。育てたものだけしか気がつかない「私とひかるの秘密の挨拶」である。

8 月 10 日（月・祝日）孵化後 66 日令　放鳥 26 日目

この日も挨拶に訪れた。今もなお、ひかるを観察しているには理由がある。
それは、秋が深まっても 1 羽だけツバメが飛んでいたら、ひかるかもしれないからである。この辺りでツバメを 1 羽も見かけなくなるまで見守りたいと思っていた。

8 月 11 日（火）孵化後 67 日令　放鳥 27 日目

いつの間にか蝉の鳴き声が変わり、夏の終わりを告げるかのようだった。
ひかるとの別れが近づいてきているようで、もの寂しく感じた。

8 月 12 日（水）孵化後 68 日令　放鳥 28 日目

ひかるを特定することが難しくなってきた。再び何度も何度も自分に問いかけた。
【人間に育てられたツバメは、自然界を生き延びていくことができるのか】

① エサ（飛翔昆虫）を十分にとれるのか。
② 水面を飛びながら水を飲んだり、水浴びすることができるのか。
③ ねぐら（鳥の寝る所）を見つけることができるのか。
④ 仲間をすぐに作れるのか。
⑤ 敵の攻撃から身をかわすことができるのか。

ひかるは①～⑤全てをクリアしている。
放鳥してから 28 日間、自然界を生き延びている。
ひかるは野生復帰した。私から自立した。

8 月 13 日（木）　孵化後 69 日令　放鳥 29 日目

とうとう「私とひかるの秘密の挨拶」はなくなった。
私の存在が、ひかるの足かせになってはいけない。
この夜、身を切る思いで、開け放していた和室の窓を閉めきった。
ひかる、どうか無事でいてほしい。心の中で祈った。

8 月 14 日（金）

数羽のツバメが訪れた。
その中に ひかるがいると信じている。
今もなお、陰ながら見守っている。
私はツバメが大好きだ！ ツバメに夢中だ！ ツバメは全てひかるちゃんだ！

## Ⅴ　ツバメ観察

8 月 15 日（土）

職場に男の子がやってきた。玄関に作られた一番新しい巣から落ちた、巣立ち間近のヒナを手渡された。「おねえ～ちゃん ヒナ落ちてたよ。ちゃんと巣に戻しといて～な」もうひとこと言われた。「このままだと、また落ちるよ」

その瞬間、頭をガツンと殴られた気分になった。一番大切なことを忘れていた。ヒナが落ちないように未然に防がなければならないことを。男の子のおかげで戻したヒナは 8 月 17 日(月)無事に巣立っていった。

男の子は「巣立ったばかりの『元気』なヒナ」が地上に不時着したところを見つけ、巣に戻したり、木の枝など安全な場所に避難させて救助したことが何回もあったそうだ。

8 月 16 日（日）

外城田川河口の中州周辺へ行った。日没後、真っ黒な大群が渥美半島方面から飛んできた。無数のツバメが海面すれすれを飛びながら中州方面へと一直線に入ってきた。まるで規則正しい軍隊のようだ。

インターネットでこんな記事を発見した。「伊良湖岬から東南アジアを目指すツバメを見送ることができる」この大群は海を渡って伊勢志摩半島へ飛んできたのだろうか。ツバメに神秘とロマンを感じた。

## 【巣立ち後教育】

8 月 17 日（月）巣立ち

巣立ち間近のヒナのいる巣の周辺を 10 羽ほどのツバメが飛び交っていた。まるで巣立ちを促しているかのようだった。もしかして、このツバメたちが「ヘルパー」かと思った。ツバメたちは懸命に巣立ちを促していたが、この日は全てのヒナが飛び立つことはなかった。

8 月 18 日（火）巣立ち 1 日目

電線で親鳥からエサをもらう巣立ったばかりの 4 羽のヒナを発見した。とうとう職場のツバメ全てが巣立った。巣から電線に場所が変わっただけで、親はエサ運びに大忙しだった。電線に止まったヒナたちは、まだ黄色いクチバシを大きく開けて「ピッ、ピッ」とエサをせがんでいた。夜は家族全員で巣に帰ってきた。狭い巣の中で身を寄せ合って眠っていた。

8 月 19 日（水）巣立ち 2 日目

巣立ったばかりのヒナは飛び続ける体力がなく、すぐに電線に戻り休憩していた。ヒナは休んでばかりで親鳥はなんとか飛び立たせようと奮闘していた。この日も親は、電線に止まった 4 羽のヒナにエサを運んでいた。

8 月 20 日（木） 巣立ち 3 日目

親鳥の奮闘は続いていた。親はエサを見せびらかすだけで電線に止まったヒナの前を素通りしていた。中には空腹に耐えかねて飛び立つヒナもいた。ヒナはエサをくわえた親鳥を鳴きながら追いかけていた。

まだヒナたちは飛ぶ能力が低いようだ。体力がついてきたヒナは、親を追いかけ空中でエサをもらっている。体力のないヒナは休憩ばかりしている。親は休んでいるヒナには、電線から引きずりおろすような感じで飛び立ちを促していた。秋には南方への渡りが待っている。親は必死の様子だった。

8 月 21 日（金） 巣立ち 4 日目

空ではエサをくわえた親鳥を 4 羽のヒナが追いかけていた。ただ口を開けてエサをもらう段階は卒業したようだ。ツバメは飛翔昆虫を捕まえなければならない。空中給餌はその技術を身につける上で大切な訓練のようだ。この夜、親鳥とヒナたちはねぐら方面へと消えていった。おそらく、ねぐらの場所を教えるためだろう。

8 月 22 日（土）巣立ち 5 日目

ヒナたちは少しずつ飛ぶ能力や体力がついてきたようだ。空中給餌も素早くなってきた。この日は川の水面で飛翔昆虫を捕ったり、飛びながら水を飲んだり、水浴びする方法を学んでいた。

8 月 23 日（日）巣立ち 6 日目

ヒナの訓練は続いていた。駐車場に立っていると、親鳥が私の肩すれすれを浮遊するかのように飛んできた。二度の繁殖で疲れきった様子だった。私の知るかぎり巣立ち後の訓練は、この後 1 週間ほど続いていた。

今回、職場のツバメの子育てを観察したことにより「親鳥はヒナが巣立つ前も巣立った後もエサを運んでいる。巣立ったばかりのヒナは、自然界で生き延びていくために必要な知恵を、親鳥から毎日毎日学んでいる」ということが分った。

9 月 10 日（木）

稲穂の頭が垂れる実りの季節になった。稲刈りをしている田んぼには、ツバメがたくさん集まっていた。観察していると、高齢のご夫婦と話をする機会に恵まれた。ツバメは営巣条件の悪化、エサ場の減少等により数が減ってきているという。

ツバメは人間を信頼して人家の軒先で子育てをする。最近は糞による問題等から人が営巣を妨げたりするケースが多いそうだ。また、この辺は害虫を駆除するのにドローンによる空中農薬散布が行われているという。

昔から「ツバメは害虫を食べてくれる益鳥」「ツバメが巣を作る家は縁起が良い」などと言われている。オーストリアやエストニアでは国鳥になっている。
ツバメは日本のみならず世界中で愛されている。

ツバメはモチーフとしても親しまれている。男性の正装「燕尾服」、東京ヤクルトスワローズ「つば九郎」、ＪＲ九州「つばめ」、葛飾北斎「紫陽花に燕」、イギリスの童話「幸福な王子」、デンマークの童話「親指姫」など。
ツバメは世界中の文化に深く根づいている。

益鳥であり、昔から人間との結びつきが強いツバメ。ツバメと人間との「つながり」が消えてしまわないように、私はツバメとの関係を大切にしていきたいと思う。

9 月 13 日（日）

ここ数日、空が騒がしくなってきた。自宅の 2 階のベランダで観察していると、日没前後 100 羽ほどのツバメが､私の目の高さを通りねぐら方面へと消えていった。日本全国のツバメが南方へ移動し始めたのだろうか。みんな険しい表情をしている。これからツバメは、命がけの旅をしなければならない。

9 月 20 日（日）21 日（月・祝日）22 日（火・祝日）

最近ツバメを見かけなくなったが 1 ケ所だけ 20 羽ほどの子ツバメが集まる場所を発見した。そこは海岸に近く、海藻工場があった。周りにはサツマイモ畑が広がっていた。そこには蝶や蛾がたくさん飛んでいた。よく見るとサツマイモの葉は無数の穴があいていて小さな幼虫がいた。子ツバメたちは害虫を捕ってくれていた。

子ツバメたちは海に出て行き、海面と海岸線を行ったり来たりしていた。この行動は大海原を渡る長距離飛翔のトレーニングだろうか。

9 月 27 日(日)

子ツバメたちはとうとう 3 羽になった｡夕方集団ねぐらへツバメを探しに行った。
この辺りもツバメの姿が消えつつあった。

10月1日(木)

天高く青い空。海は凪いでいて、青々とした世界に彼岸花が鮮やかな紅色を添えていた。もうツバメの姿を見かけなくなった。

ひかる、あなたが野生に戻ったその日から、いつもあなたのことを想っています。元気でいるのかずっと考えています。今でも、あなたのお部屋はそのままになっています。空を舞うツバメを見ると、あなたが恋しくなります。私はあなたから大切なことを学びました。生きることに一生懸命なあなたの姿から【小さな命の尊さを】

あの時、あなたのことを何も知らずに保護してしまったけれど、あなたのことを調べていくうちに、過酷な環境に身を置いていることを知りました。昔みたいに、人間とあなたたちが共生できるように、あなたたちの身になってもっと考えていかなければならないことを。

頑張り屋のひかる、思いやりのあるひかる、律儀なひかる、素晴らしい本能が備わったひかる、ゆで卵が大好きなひかる、そして何より「運を引き込む力」が備わったひかる。

ひかる、あなたは2度も落ちた。与えてはいけないエサを食べさせられた。大人のツバメや野鳥から嫌がらせをうけた。仲間はずれにされた。雨の日も風の強い日も訓練に励んだ。生き延びるために懸命に頑張った。あなたには災難にあっても、運を引き込む力がある！きっと生きていける！そう信じています。

ひかる、渡りの無事を心から祈っています。そして来春、あなたに会えることを信じて、私の心は夢と希望に満ちあふれています。

## Ⅵ おわりに

「時間を戻すことができたら、6月10日14時15分に戻したい。2羽のヒナが巣ごと落ちたとき、ヒナは生きていた。親鳥は巣の周辺を飛び交い、ヒナを一生懸命に探していた」

あの時、素早くカップ麺容器で簡易巣を作り、その中に落ちた2羽のヒナを入れ元の場所に戻していたら、ひかるは親鳥と引き離されることはなかったでしょう。もう1羽のヒナも死なずに済んだことでしょう。そう思うと心が痛みます。この点については深く反省し、今後に繋げていかなければならないと思っています。また、お詫び申し上げます。

今回の体験をとおして学んだことは「ヒナの救助、保護の場面に出会ったとき、適切な判断こそがヒナを救う最善の方法である」ということです。

「ヒナを拾わないで」(現在は「みまもって、野鳥の子育て」)キャンペーンをご存知でしょうか。これは、(公財) 日本鳥類保護連盟、(公財)日本野鳥の会、NPO 法人野生動物救護獣医師協会が『巣立ったばかりの野鳥のヒナ』に出会ったときの正しい接し方を伝えることを目的として行っています。恥ずかしながら、当初はこの言葉を全く知りませんでした。この言葉は奥深く、色々と勉強させていただきました。

ヒナを持ち帰って保護するのではなく、その場での救助行為（巣に戻す。木の枝など安全な場所に避難させて見守る）にとどめ、あとは親鳥に任せる。「巣立ったばかりの『元気』なヒナは、人間が保護するよりも親鳥に任せた方が、自然界で生き延びていく可能性が高まる」ということを、身をもって学ぶことができました。

また、「ヒナを拾わないで」この一言だけでは済まない場合が、どうしても起こります。人間には優しい心、人情があります。ツバメは人間を信頼して人家の軒先で子育てをします。今回のような事例や類似の事はどこでも起こっています。

「死に直面した『巣立ち前のツバメのヒナ』をどうしても放っておけない」
「どうしても見過ごすことはできない」そんな場面に出会ったときは、各都道府県の鳥獣保護担当部署にご連絡お願い致します。そして「ツバメのヒナ ひかるちゃん保護から野生復帰までの記録」が少しでも参考になり、小さなヒナの命を救えたとしたら、これほど嬉しいことはありません。

ひかるが野生復帰できたのは「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」に出会えたおかげです。M氏にはたくさんのお力添えをいただきましたこと、ここに深く御礼申し上げます。2003 年ツバメの「ピッピ」が頑張ってくれたおかげで、2020 年「ひかる」の命をつなぐことができました。「ピッピ」心からありがとう。

最後に皆さんにお伝えしたいことがあります。
それは、「ひかるが野生復帰できたのは皆さんのおかげ」でもあります。インターネット上に掲載されている「ツバメを愛する世界中の皆さんから寄せられた貴重な情報」です。野生鳥獣保護関係者の皆さん、野鳥の会の皆さん、獣医師の皆さん、ツバメを保護したことのある皆さん、愛鳥家の皆さん。皆さんからの情報にひかるも私も救われました。この場を借りて心から感謝を申し上げます。

そして、ツバメの保護について、理解と協力をしてくれた職場の仲間達、友人、私の家族、ありがとう。

引用資料　1),2),3),4),5),6),7),8)「ツバメの雛、保護から放鳥までの記録」三宅慶一　著

再び春が訪れ、ひかるが愛するパートナーと巡り会い、次の世代が生まれ、そしてまた次の世代へと、ひかるの命・遺伝子が受け継がれていくことを切に願っています。大好きな ひかるちゃん ありがとう。

みなさん　ありがとう「チュイ」